

## IBS フェローシップ活動報告

IBSは、わが国の学術研究活動に寄与することを目的として、研究助成制度（IBS フェローシップ）を実施している。これは、IBSの創立30周年を記念して創設されたもので、1994年度より第1回目開始された。以降、毎年2課題についてそれぞれ一人の研究者を公募し、2年間の研究期間にわたり、海外における特定課題の研究を助成し、研究成果を公表している。

これまでに16編の報告がなされ、2編は現在継続中、本年度は新たに2課題の委嘱研究者を決定した。

平成16年度は、研究成果として第8回の第1課題「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析（委嘱研究者 服部圭郎）ならびに第2課題「『サッチャリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察（委嘱研究者 東 秀紀）について最終報告がなされた（概要をpp.75～85に掲載）。

また、新たに2課題について公募し、9名の応募者の中から選考の結果、第10回目として2名の研究者に研究を委嘱した。研究課題と委嘱した研究者は次の通りである。

### 平成16年度の新たな研究課題と委嘱研究者

#### 第10回第1課題：「パリ大都市圏開発におけるニュータウン整備公社の評価」

パリ大都市圏政策のなかで建設されたニュータウンは、建設後約30年経過した。これらの開発を進めたニュータウン整備公社は30年の時限つきで設立されたが、ちょうど終了時期になっている。また、この期間に計画内容も変化してきている。これらの公社によるニュータウンプロジェクトの事業経営のまとめと評価を行う。

川野 英二（大阪大学大学院人間科学研究科助手）

#### 第10回第2課題：「東南アジア諸国における人力車（シクロ、その他）の成立と発展過程の都市交通機能から見た分析」

東南アジア諸国では、人力による公共交通手段が市民の足として機能している。これらの生成と発展には、日本の影響があるといわれる。そこで、その成立期における日本の影響を明らかにする。また、それらは日本では既に日常の交通手段としては衰退しているにもかかわらず、東南アジア各国で現在機能している理由を考察する。さらに、アジア都市で今後地下鉄の導入など交通手段が近代化されるにつれて、人力車が都市交通体系にどのように機能していくかを検討する。

黒川 基裕（高崎経済大学地域政策学部講師）

表 研究課題および委嘱研究者

(肩書きは最終報告時)

第1回 1994年度	第1課題 「業務拠点都市・クロイドン開発の歴史的経緯」 西山 康雄(東京電機大学 建築学科 教授)
	第2課題 「Milton Keynesにおける自動車の利用と道路計画に関する実証的研究」 高橋 洋二(東京商船大学 流通情報工学科 教授)
第2回 1995年度	第1課題 「Hammerfestの戦後復興における市街地整備に関する研究」 谷口 守(岡山大学 環境理工学部 環境デザイン工学科 講師)
	第2課題 「キティマツ リソース・フロンティアにおけるサステナブル・ディベロップメントの可能性」 榎戸 敬介(株式会社 アーバンハウス都市建築研究所 研究員)
第3回 1996年度	第1課題 「地方空港の歴史と将来 シャノン・ガンダー・中標津」 田村 亨(室蘭工業大学 助教授)
	第2課題 「新首都の誕生と成長 Canberraの100年」 岸井 隆幸(日本大学 理工学部 土木工学科 教授)
第4回 1997年度	第1課題 「田園地帯の計画と保全 田園都市論の影響と今日的意義」 風見 正三(大成建設 設計本部 環境デザイングループ)
	第2課題 「ロンドン・ミューズの誕生・死・再生 世界の都心居住空間の再生を目指して」 宇高 雄志(広島大学 工学部 建築学科 助手)
第5回 1998年度	第1課題 「ローマ市郊外と東京都市圏の大型ショッピングセンター形成化にかかわる比較研究」 堀江 興(新潟工科大学 大学院 教授)
	第2課題 「メキシコの小都市メクスカルティランの都市の自立性とその将来について」 斉藤 麻人(ロンドン大学 政治経済学院 地理環境学部 大学院)
第6回 1999年度	第1課題 「カナダ内陸部の或る住宅団地形成経過の考察」 勝又 太郎(株式会社 東京三菱銀行 ストラクチャードファイナンス部)
	第2課題 「欧州と日本における港湾と企業物流の動向」 土井 正幸(筑波大学 社会工学系 教授)
第7回 2000年度	第1課題 「コパカバナ地区で働く人々の住宅と職場の関係」 土生 珠里(九州大学大学院 人間環境学研究科 空間システム専攻 社会人博士課程)
	第2課題 「イギリスの地方都市ニューベリーのバイパス道路について」 村上 睦夫(株式会社 都市プラン研究所 代表取締役)
第8回 2002年度	第1課題 「米国大都市圏計画制度の経緯と背景にある政策意図の分析」 服部 圭郎(明治学院大学 経済学部 講師)
	第2課題 「『サッチャリズムの都市計画』の特徴と成果、問題点の考察」 東 秀紀(清泉女学院大学 人間学部 教授)
第9回 2003年度	第1課題 「韓国における土地区画整理手法の変遷」 朴 承根(株式会社 富士総合研究所)
	第2課題 「レッチワース田園都市の財政状況の歴史的変遷の分析」 中井 検裕(東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授)
第10回 2004年度	第1課題 「パリ大都市圏開発におけるニュータウン整備公社の評価」 川野 英二(大阪大学大学院 人間科学研究科 助手)
	第2課題 「東南アジア諸国における人力車(シクロ、その他)の成立と発展過程の都市交通機能から見た分析」 黒川 基裕(高崎経済大学 地域政策学部 講師)

## IBS フェロウシップ実施要領(抜粋)

- 課題は毎年原則として2課題とし、それぞれ、1名の研究者に委嘱する。
- 研究者は、学歴、職歴を問わないが、海外生活経験者を原則とする。
- 募集は関係機関(大学、団体、学会その他)機関紙・誌等を通じての公募とし、運営委員会の選考を経て、研究者を決定、公表する。
- 選考された研究者は、以下の報告の義務を負う。
  - ① 選考された年のIBS創立記念研究発表会(通常7月14日)に研究方法の概要を発表
  - ② 2年目の同発表会に中間報告を発表
  - ③ 同年度末までに最終報告書を提出
  - ④ 3年目の同発表会に最終報告を発表
- IBSは、提出された最終報告書を3年目の発表会で公表する。
- 上記以外の研究成果の発表は研究者の自由である。
- 提供する研究費は毎年定めるが、その用途についての制限は設けない。研究者が研究費により入手した資料の所有権は研究者に帰属する。